

# 地産地消の中継基地 みくりや市の今

「みくりや市」は、みくりや市運営協議会（小川孜会長、会員68人）が運営し、JR山陰本線御来屋駅の駅舎の半分に立つ地元特産物の直売所です。御来屋駅の駅舎は1902（明治35）年、境港と御来屋間に鉄道が開通したとき開業したもので、山陰最古の駅舎です。2002（平成14）年に、山陰鉄道開通100年を記念して整備され、特産物直売所「みくりや市」が開設されました。



ニンジンの形を利用した人形

店内には、安全・安心・新鮮をモットーに、会員の皆さんが丹精こめてつくった地元の新鮮な野菜をはじめ、花やくだもの、卵や加工品のほか、海産物などが並んでいます。また、ミロネーやコーナードもあり、地元産の陣構紅茶なども味わえます。店を利用される方の大半は地元の方ですが、週末には町外のお客さんが増えます。また、定休日明けの水曜日には、肉のほかに、手作りまんじゅうなどの菓子も並び、10時の開店後が一番お客さんが多いそうです。土曜日には近くの名和農業者センターで加工した豆腐も並びます。生花コーナーにはストックやシブキ（ヒサカキ）が並び、季節感を添えています。



3

A「みくりや市」となる1年前くらいから数人で「みふね市」として、富長の国道沿いでネギ、ピーマン、ジャガイモ、タマネギといった野菜を少量直売していました。野菜を売るというのは初めてのことで、どうやって売っていいかも分かりませんでした。

次第に生産量が増え、市だけでは消費できなくなり、どこかに使ってもらえないかと思いついたところ、当時、名和学校給食センターで栄養士をされていた渡辺真理子さんに出会い、野菜を学校給食に使っていただくことになりました。

Q 現在までの活動は  
A 初めのころは、毎日、出荷状態の指導を受けていました。今では、給食センターと相談して作った出荷規格書に基づいて、大きさや形、状態をチェックしたものをに出しています。必要とされる量を給食部会の会員20人に割り振るのが苦労するところです。畑の状態が分かりにくいので、煙の状況が分かりにくいのですからね。

Q 忘れられない出来事は  
A 予約が入っていたことをすっかり忘れていた会員の方がおり、その日に使うダイコンを何人かに声をかけて急ぎよ採り持って行ったことがあります。

現在は、名和と大山の学校給食センターのほか、名和地区の保育所や福祉施設などにも食材を提供しておられます。

Q 今年の夏には、同協議会が名和小学校の1、2年生用の畑地作りに、石拾いから耕運、うね作りまで協力されました。これからのみくりや市の活動が注目されます。



1

このほどみくりや市は、学校給食での貢献が認められ、鳥取県の教育長表彰を受けられました。先日の総会で新しく食材供給担当となられた秋山和子さん（小竹）にお話を伺いました。



2



4

## 編集後記

### 【写真説明】

- ①山陰最古の駅舎・JR御来屋駅舎の半分立つみくりや市。
- ②店内には新鮮な野菜などが並びます。
- ③名和小学校6年1組、2組から届いた日付けと標語の入った日めくりカレンダー。店内と事務所に飾られています。
- ④2月の学校給食に使われたナノハナ。二宮順雄さん（下前谷）の畑で栽培されたものです。

久々に冬将軍がたくさんの雪を運んできました。2月16・17日に寒気の影響で、鳥取県内はこの冬一番の積雪を記録し、大山では積雪が2桁を超えました。スキー場は当分雪不足の心配はなさそうです。やっぱり冬は雪が降らないと心配ですね。▼もうじき別れと出会いの春が来ます。K



大山町広報 3月号 No.40

◆発行：大山町役場

◆編集：企画情報課

鳥取県西伯郡大山町御来屋328番地

TEL 0859-54-3111

FAX 0859-54-2702

大山町ホームページ

<http://www.daisen.jp/>

◆印刷：有限会社米子プリント社